

平成30年度富山県在宅医療推進加速化事業成果報告

No	事業名	申請者	実施内容	事業成果
1	中新川郡に住む人が、その人らしく最後まで望む場所ですごすことを支援するための医療・介護・福祉関係者への研修事業	中新川郡医師会	<p>8月26日(日) 第1回とやまいびー:ごちゃまぜ事例検討会 64名参加 独居高齢者の終末期の事例について取り上げ、ディスカッションを実施</p> <p>9月29日(土) 第2回在宅医療推進加速化事業研修会 27名参加 「住民本位の医療・介護について考える」をテーマとし、講義とグループワークを実施</p> <p>11月17日(土) 第3回在宅医療推進加速化事業研修会 25名参加 「家族造形法と通して事例を検討してみよう」をテーマとし、講義と演習を実施</p> <p>12月15日(土) 第4回在宅医療推進加速化事業講演会 76名参加 特別講演「認知症診療のトピックスと地域での認知症予防活動」、一般講演「住み慣れた地域で認知症の人と家族の生き方を支える」についての講演を実施</p> <p>3月23日(土) 在宅医療推進加速化事業報告会 52名参加 在宅医療推進加速化事業、たてやまつぎ在宅ネットワークの活動について報告会を実施</p>	<p>学生も交えて事例検討会が開催され、授業や実習よりも現場に近い、話し合いの機会ができた。また、それぞれの職種の立場から意見交換ができたことで、多職種への理解が進んだ。</p> <p>住民本位の医療・介護についてのディスカッションを行い、顔と顔を合わせながら地域に根付いた関係性の構築と各専門職の果たす役割について理解を深めることができた。</p> <p>紙面上の家族図を造形法に置き換えて、それぞれの役割を体感し、それぞれの思いや違う視点で考える機会となった。また、参加者満足度で全員が90%以上良かったと回答しており、非常に有意義な研修となった。</p> <p>講演の内容について82%が大変良かったと回答しており、認知症に対する理解が進んだ。また「自分や将来のことを考えて参加した」との回答が多く、在宅医療・介護への関心の高さがわかった。</p> <p>第1回から4回までの加速化事業研修会の内容を中新川郡の医療・介護・福祉関係者に当日参加できなかった方にも知っていただくことができた。 富山県在宅医療加速化事業について中新川郡の医療・介護・福祉関係者に理解を得ることができた。</p>
2	第2弾ICTツール「あんしん在宅ネットにいかわ」による多職種連携と集積データの活用	下新川郡医師会	<p>ICTツールを活用し、新川圏域における在宅医療・介護に係る多職種データを集積するため、医師に症例集積アンケート調査実施し、症例を分析した。</p> <p>調査対象期間:平成30年6月1日～12月31日</p>	<p>追跡できた死亡例のうち在宅(自宅)死亡例193件について分析した。 分析の結果、最近の3年間は、緩和ケア症例も、その他の症例も急激に在宅症例が減少しており、連携基幹病院からの患者紹介減少、当地区の幾つかの訪問看護ステーションの閉鎖、在宅医療を担う医師の減少などがその要因として考えられた。 ICTツールの活用により、多職種で日々の病態の変化や生活状態が把握でき、在宅主治医の負担軽減につながった。それとともに、メッセージ機能を使うことで連絡がスムーズに取れるようになった。 在宅医療に関わる新しい職種として、言語聴覚士と管理栄養士が加わったことにより、今後、摂食・嚥下機能障害の改善やフレイル対策など在宅患者へのアプローチ増大が望まれる。</p>
3	在宅医療談話会	高岡市医師会	<p>6月5日(火) 25名参加 レクチャー「在宅医療における保険点数算定のポイント」 講師:平野 誠先生から講義後に質疑応答。 10月2日(火) 30名参加 テーマ「高岡市の訪問看護について」 レクチャー1「高岡市内の訪問看護ステーションについて」 講師:野田 美加先生 レクチャー2「看取りについて」 講師:一谷 志津子先生から講義後に質疑応答。 平成31年1月8日(火) 30名参加 レクチャー「褥瘡について」 講師:平野 貴士先生から講義後に質疑応答。</p>	<p>平成30年度診療報酬改定の在宅医療の部分の変更点が理解でき、ACPの認識が高まった。高岡市内の訪問看護ステーションの特徴が理解できたため、今後多職種連携推進に寄与すると思われる。褥瘡など現場で対応に困るようなことを専門家からのレクチャーや助言により対応できるようになることで在宅医療へ取り組む医師が増加することが期待される。</p>
4	緩和ケアグループワーク	高岡市医師会	<p>11月26日(月)緩和ケアグループワーク 89名参加 テーマ「患者および家族の意思決定支援について考えよう！」 レクチャー1「アドバンス・ケア・プランニング(ACP)について」 村上 望先生 レクチャー2「呼吸困難およびヒドロモルフォンについて」 中曽根 美香先生 検討事例「74歳、女性 後腹膜腫瘍」提示された症例</p>	<p>今年度より患者の意思決定支援に関する事業に取り組んできたが、アンケート結果では79.1%が意思決定支援という言葉を知っていると答えた。今後、是非取り組みたい、できれば取り組みたいという回答を合わせると98.6%となっており、在宅での意思決定支援の取り組みがさらに進むものと期待される。</p>

No	事業名	申請者	実施内容	事業成果
5	摂食嚥下研修会	高岡市医師会	10月29日(月) 摂食嚥下研修会 95名参加 テーマ「口腔内の観察と摂食嚥下評価ができるようになるう！」 レクチャー1「口腔内の観察について」 夏目 もえこ先生 レクチャー2「口腔・嚥下機能の評価について」 大鋸 明香先生 それぞれのレクチャー後、提示された症例に関して評価表を用いて実際に評価する実技研修	アンケート結果より、92%が口腔内や摂食嚥下を評価するためのツールが必要だと回答した。今回作成した評価表の仕様を考えているという回答が94%となっており、当医療圏での口腔内観察と摂食嚥下評価に対する知識、技術向上が高まるものと期待される。
6	地域医療連携ネットワークを利用した在宅医療での多職種連携推進事業	富山市医師会	7月3日 たてやまネット(診療工房)研修会 27名参加 9月14日 たてやまネット(診療工房)研修会 19名参加 9月27日 たてやまネット(診療工房)研修会 15名参加 9月30日 たてやまネット(診療工房)研修会 22名参加 10月4日 たてやまネット(診療工房)研修会 11名参加 10月11日 たてやまネット(診療工房)研修会 13名参加 1月31日 たてやまネット(診療工房)研修会 7名参加 2月14日 たてやまネット(診療工房)研修会 9名参加 2月28日 たてやまネット(診療工房)研修会 7名参加 3月14日 たてやまネット(診療工房)研修会 17名参加	在宅医療を推進するにあたり医療・介護の情報共有を効率化させるICTツールの利用は欠かせない。たてやまネット(診療工房)はそのICTツールの1つであるが、その有用性について広く周知することができた。当該事業を通じわずかずつではあるが、新規導入に関する問い合わせがあった。また、当該システムの価値を高めるための要望・意見等を広く収集できたことは大きな成果であった。